

ふれあい通信

2023/3/6 第16号 (一社) 熊本県労働者福祉協議会

早いもので、3月。熊本の桜の開花予想は3月20日（平年は3月22日）、満開が3月29日（平年4月1日）となっています。今年は3年ぶりに桜の名所では、花見の宴も開催され多くの人で賑わうことになるでしょう（？）。宴を計画されている方々もいらっしゃるのではないかと思う。因みに、私は3月26日 万日山で花見です。熊本の某企業が、万日山を桜の名所にと、多くの桜の木を植樹し昨年位から花見に訪れる人が増えていますが、まだまだ花見の穴場かもしれません。山頂の駐車場は限りがありますので、場所取りは早めがいいかもしれません。低山登山がおすすめです。）

ロシアのウクライナ侵攻から1年。収束に向かう気配もありません。戦火の中で暮らす人々、戦線で戦う兵士。一日も早く終息してほしいと願います。

トルコ地震。熊本地震を経験した私たちは地震の恐ろしさを感じ取ることができます。亡くなられた人はシリアと併せると5万人を超えたと言われています。各国からの支援も寄せられているようです。トルコも過去に幾度となく地震が発生している地域と言われていますから日頃からの備えもある程度されていたのではと思います。

熊本地震から間もなく7年。みなさん、備えはされていますか。

さて、今号のひと言コーナーはUAゼンセン熊本支部の西支部長から多忙な中寄稿いただきました。県内未組織の企業を回り、労組の設立に尽力されています。

是非ご一読いただき、UAゼンセンを知りたいだけたらと思います。

【1】ひと言コーナー

UAゼンセン熊本県支部の西です。

UAゼンセンは自由にして民主的な労働運動の担い手として、友愛の精神にもとづき、社会正義を追求しています。

正式名称は「全国繊維化学食品流通サービス一般労働組合総同盟」と言い、その名の通り全国で多種多様な産業・業種が加盟（2,260組合、1,852,818名：2022年9月現在）し、女性組合員比率・短時間組合員比率がそれぞれ6割を超えています。また47都道府県に都道府県支部を配置しています。

わが熊本県支部は3名の職員で、加盟組合だけではなく、熊本に働く人たちが立ち寄りやすいようにと、キャッチフレーズ「熊本ほっとステーション」を掲げました。

旧U.I.ゼンセン同盟と旧JSD（サービス流通連合）が2012年11月6日に統合しUAゼンセンとなり10年が経ちました。今年度（2022年10月～2023年9月）の1年間で10周年記念事業（行事）を行っていきます。開催済みの行事をご紹介します。

10周年記念レセプション（キックオフ）（2022.10.15）



久しぶりにご来賓をお迎えしてのレセプション

「グリーンランド ファミリーBBQ」（2022.11.19）



あいにくの雨天でテント内でのバーベキュー&抽選会

東北視察「東日本大震災から11年～復興状況を視察する～」(2022.12.17-19)



仙台空港近くの海岸林再生地にて



被災したイオン気仙沼店での講話



特別に被災した高野会館の中に

【2】中央労福協活動コーナー 《継続でご案内いたします》

生活・就労応援基金（ろうふくエール基金）について改めてお知らせいたします。身近なところで、コロナ禍で苦しむ方々を支援している団体等に是非ご紹介ください。

基金の目的

基金を呼び水として、地方労福協が軸となり労働組合・協同組合・市民団体等とともに、コロナ禍で苦しむ人たちに対する生活・就労支援活動を地域で促進することを後押しする。この取り組みを通じ、組合員・市民の共感を広げ、労働者福祉運動の役割発揮につなげる。

■就労支援、職業訓練、雇用創出、居住支援などの事業への助成

熊本県労福協が対応できるものは以下の支援Bです。

・支援対象B

コロナ禍に対する生活や就労の支援を目的として、地方労福協が実施もしくは関与する事業や活動。

例えば、各地域で事業団体が行う学生生活支援・フードバンク事業・子ども食堂事業等との連携、民間団体・NPO等が行う困窮家庭等への支援活動との連携など。

・「関与する」とは、一緒に活動すること、事業・活動に共感し寄付を集めること、事業・活動を応援、推薦、紹介すること等を含む。

・コロナ禍対応に特化した事業・活動だけではなく、就労支援、職業訓練、雇用創出、居住支援などを行うなかでコロナ禍対応を行っている事業・活動も対象となる。

・助成額

1団体の助成上限額 **支援対象B 20万円**

【3】南部労福協活動コーナー

2023年度労働者福祉南部ブロック協議会定期総会が開催されました。

(1) 日 時 2023年2月17日(金) 14時00分~15時50分

(2) 場 所 鹿児島サンロイヤルホテル(鹿児島市与次郎1丁目8-10)

熊本県は、次期南部ブロック事務局を担うことになりました。

■南部ブロック新役員体制

会長 友田 事務局長 浦本

会計監査 九州労金上野課長 濱津こくみん共済 coop 中央支所長

事務担当職員 豊田

任期2年間

事務局担当県は時計回りで鹿児島⇒熊本(2023年~2024年)⇒長崎⇒佐賀⇒福岡

⇒大分⇒宮崎⇒鹿児島⇒熊本

※南部ブロック 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(北部・東部・中部・西部・南部)

【4】県労福協活動コーナー

■ 2023年1月23日(月) 県労福協2023年度役員選考委員会を開催し、選考対象者の資格要件を確認し、今後の進め方について協議を行いました。2023年3月2日(木)第2回役員選考委員会を開催し次期役員について確認を行いました。

■ 2023年1月23日(月) 2022年度第1回連合・福祉事業団体・労福協連絡会議を4年ぶりに開催し、福祉事業団体の現状・課題を共有し、県労福協と一体となって労働者福祉運動を構築していくことを確認しました。

■ ろうふくエール基金へ助成申請を行いました。

2023年1月25日第5回理事会において、「シンママ熊本応援団」に対して、助成申請を行なうことを確認し、中央労福協に対して1月30日申請を行いました。今後中央労福協からの聞き取り等のあと、4月14日開催される中央労福協幹事会で確認される予定になってい

ます。

【5】雑学（トリビア）コーナー

庶民が桜を見ながら酒を飲んで楽しむという様式の花見が広まったのは、江戸時代になってからだと言われている。



花見（歌川広重 1834年頃）

奈良時代のころまでは日本で花といえば「梅」のことで、貴族が梅を見ながら歌を詠む様式が現代の「花見」の原形だとされている。奈良時代末期に成立した日本に現存する最古の和歌集『万葉集』には「梅花の宴（うめのはなのうたげ）」が収録されており、梅を観賞しながらの歌会が開かれていた。

そして、平安時代に入ると花の主役は「梅」から「桜」へと移り変わっていった。平安時代初期の史書『日本後紀（にほんこうき）』には、嵯峨天皇（さがてんのう、786~842年）が812年3月28日（弘仁3年2月12日）に京都の寺院・神泉苑（しんせんえん）にて「花宴の節（かえんのせち）」を催したとあり、これが記録に残る「桜の花見」の初出と考えられている。

その後、「桜の花見」は貴族の間で流行し、831年（天長8年）からは宮中で天皇主催の春の恒例行事として取り入れられた。その様子は平安時代中期に成立した『源氏物語』の第八帖「花宴（はなのえん）」にも描かれている。

出典：雑学ネタ帳

【6】福祉事業団体の活動

以下のURLからご覧ください。

(1) 九州労働金庫熊本県本部

<https://kyusyu-rokin.com>

(2) こくみん共済 coop 熊本推進本部

<https://www.zenrosai.coop/contact/zenkoku/kumamoto.html>

(3) ユニオントラベル熊本

<http://unitora.com/>

(4) 秋津レークタウンクリニック

<https://akitsu-laketown.jimdofree.com/>

(5) ライフサポートセンターくまもと

<http://blog.rofuku.net/kumamoto-lsc/>

福祉のことなら何でもご相談ください。あなたの悩みに応えます。事業団体・産別の専門家が、労働問題他、福祉全般に亘って相談に応じます。

(6) 熊本県労働者福祉会館

<http://www.roukan.org/>

いつでも、だれでも利用できる会議室があります。会議、研修、講習会などでのご利用お待ちしております。

【7】事務局からひと言

■財務省は2月21日、国民や企業が所得の中から税金や社会保険料をどれだけ払っているかを示す2022年度の国民負担率が、統計のある1970年度以降で過去最大だった2022年度と比べ0・6ポイント減の47・5%になる見込みだと発表しました。新型コロナウイルス禍から雇用者報酬が回復し、分母に当たる国民所得が増えたためと説明していますが、依然として5割近い高水準が続いている。

このことについて、翌23日に兵庫県明石市の泉房穂市長が自身のツイッターで「『国民負担率47.5%』は相当高い。子どものとき（1960年代、1970代）は“20%”台で、今の半分程度。平成に入ってからも“30%”台だったのに、いつのまにか“50%”近くにまでなってしまった。まともな政治家を選んでこなかったツケが、今になって回ってきたということだろうか…」とツイートしています。このツイートに対して実業家の西村博之さんが24日泉市長のツイッターについて、「60歳以上の人達は、稼いだ額の8割を自分のお金として使って、国立大学の学費も月2万円とかの時代。今の若者たちは稼いだ額の半分しか使えなくて、大学の学費は月10万円」と投稿。「この差を知らずに高齢者が“若者たちは元気がない”とか“若者の車離れ”とか言ってる状況」としました。高齢化が進めば益々税金や社会保障費の割合は増えいくということになるようです。

賃金が上がり、使えるお金も減ってきた、昼のお弁当も辛抱辛抱、そんな声がしてきます。自動車大手は、満額回答との報道もなされています。地場中小も何とか・・・そんな思いです。頑張りましょう。

3月3日は連合熊本「2023春季生活闘争勝利・統一自治体選挙勝利3.3総決起集会」です。そして、3月5日は4年ぶりの「2023春季生活闘争勝利 連合熊本第30回産別・地協対抗駅伝大会」です。是非多くの方々の参加を・・・お願いします。

■政権幹部が子ども・子育て予算の倍増について「子どもが増えれば予算は増える」と発言しています。子どもが増えれば予算が増えることは当然のことですし、このような発言をす

る政権幹部がいるということに失望します。子どもに対する支援を考えていない証左であります。

防衛費は閣議ですんなり決まります。これから日本の未来を背負う子どもたちに対する予算も閣議で決めたらどうでしょうか。誰も異論はないでしょう。

■**値上げラッシュが続きます。**3月3,000品目、4月は5,000品目と言われています。私たち庶民は悲鳴を上げています。国民がこのような環境にあるということを当然国会議員の皆様はご承知のはずです。痛みを和らげる対策を講じていただけるもの信じています。しかしながら、耳を疑うような報道がなされています。なんと**参議院議員用の議員宿舎の家賃が値下げされることが決定されました。近隣相庭の5分の1のこと。**特権で済まされる問題でもないと思います。永田町の常識かもしれません、私たちにとっては、非常識であります。参議院の委員会で協議がされたようですが、一部議員を除き賛成多数だったそうです。問題になった文書通信交通滞在費から名称が変わった調査研究広報滞在費等含めて、4,000万円はもらうようです。これまた、変な話です。

やっぱり国会議員は辞められないのでしょうか。だから世襲議員が闊歩し、国民の痛みがわからない国会議員ばかりになるのでしょうか。格差が拡大する諸悪の根源でもあるのかもしれません。教育の視点から考えれば、見えてくるものがあるようです。

労福協としては、「子どもが望む大学に行かせてあげたい」と願う人たちのためにも奨学金無償化はしっかり求めていくべき大きな課題だと考えています。格差が拡大するばかりの今を何とか変えて行かなければと・・・みんなの思いではないでしょうか。

《県労福協からのお知らせ》

■ **「借りてる方も これから借りる方も もう悩まないで奨学金返済 Q&A」**
中央労福協が標記の冊子を発行しました。返済に困っているあなたへ法律のプロが寄り添って解説している冊子になっています。是非読んでみたいという方は、県労福協にご連絡ください。また、中央労福協HPからダウンロードできます。サイトがわからない場合も、県労福協にご連絡ください。

いまこそ
労福協の力を

「持続可能な社会をめざして」「誰ひとり取り残さない社会をめざして」そのような
思いでふれあい通信を継続していくことができれば・・・

ご意見、ご要望をお聞かせください。

一般社団法人 熊本県労働者福祉協議会

〒862-0976

熊本県熊本市中央区九品寺1丁目17-9

TEL 096-375-6029 FAX 096-375-6030

E-mail rofuku@lime.ocn.ne.jp